



「エマオ通信」

No.13 (2025 年 8 月 15 日発行)

発行人 高良 研一 (会長)

編集人 稲川 仁 (事務局長)

発行者 木村 均 (書記)

日本バプテスト連盟全国壮年会連合 「伝道者養成と教会形成を担う働き」

25/26 年度主題: 「私と教会が元気になるには」 聖句: わたしたちの心は燃えていたではないか (ルカ 24:32)

<メッセージ> 「無牧師支援を担い合う」

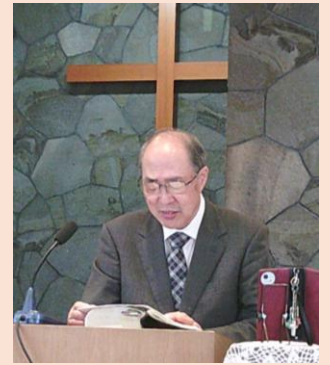
杉山 修一 (徳島キリスト教会協力牧師)

2022 年 3 月、山形キリスト教会を最後に、74 歳で現役の牧師を引退し、最初の任地であった徳島キリスト教会 (次女・杉山いずみ牧師) に協力牧師として迎えていただきました。現役時代は時間に追われ、主日の説教準備が毎回後手に回りがちでしたが、引退後は多少ゆとりが持てるようになりました。月一回の宣教奉仕に、水曜日の「めぐみ会」(聖書研究・祈祷会)の担当も月一回。毎週の礼拝前の「ひろば」(成人科分級)の担当、月一回の壮年会例会の「聖書の学び」なども担わせていただいています。

近隣の教会で、牧師交代期に一時的に無牧師になることがあります。そのような教会の説教支援で月一二度、教派を超えて数教会で奉仕の機会をいただいています。体力の衰えは否めませんが、あまり無理することなく、自然体で奉仕させていただけますことは感謝です。

中国・四国地方連合内では、引退後も継続して協力牧師として奉仕を続けられる先生もおられれば、他教会の招きに応じて引退教役者として奉仕くださっている先生もおられます。赴任教会の牧師を続けながら、無牧師教会の協働牧師として働きを担ってくださいっている先生もおられます。隔月で、無牧師教会の説教支援に奉仕くださる牧師たちもおられます。教会にとっては、多くの牧師を知る機会にもなっているようです。知恵を出し合い、奉仕の機会を分かち合いながら、お互いに支え合いつつ教会形成を導かれないと願っています。

教会は、神に呼び集められた者の形成する交わりの場で、時の移ろいに伴って教勢に変動が生じることは、やむを得ない面があります。でも、その基となっている「聖書」は、消えることはないだろうと思います。人は、神の霊性に養われて生きる存在です。「聖書」を通して神の息吹に触れて碎かれ、立ち直らされ、整えられ、肩の力を抜かれて用いられていくことに、望みを託していきたいと思います。



高松常磐町教会 (25 年 6 月 1 日)

<証①> 「宣べ伝える」

稲葉 俊雄 (洋光台教会)

洋光台教会は 1972 年の会堂建築献金式からスタートしましたが、元々、横浜国際バプテスト教会 (の英語部) から生み出された日本語部伝道所の 10 人程の若者達が、路傍伝道や福音喫茶メリー、更に横浜海岸教会の青年達・国際ナビゲーター (学生や若者への伝道団体) 等との協力により、「一人が一人を」と家族・友人に、アンデレが兄弟ペテロをイエス・キリストの元へ導いた様に、アンデレディナー (愛餐会のようなもの) を開催していきました。同時に当時は少人数の共同生活が宣教活動の源として力を発揮した時代背景もあり、男性グループ・女性グループの夫々の共同生活がスタートし、多くの若者たちが、その家でのオープンハウスに参画し、増加していったのです。(私の信仰の原点) 谷川陽師と洋光台の地に立ち、幻も与えられ、同師の辞任後、レスリー・ワトソン宣教師による牧会があり、同師は極東の責任も兼ねていましたので、バプテストは万人祭司なので、信徒メッセージも大事であり、執事のメッセージを推進したのでした。この万人祭司の立ち位置の姿勢も教勢が伸びた一因でした。又、同師の推薦により洋光台教会の初代牧師である金子敬牧師を招聘。金子師の宣教姿勢により、求道者を含め 100 人程に増加した群れが、洋光台の地に会堂を建設する事に決定。その後、私は他派も含めて約 50 の教会に会堂建築の専門家として関わりました。元々若き頃は、キリスト教大嫌い人間で、柔道・空手・ボディービルに励み、ある時・人生の虚しさを味わい、180 度転換。ひたすら走りぬいた教会生活の連続 (ピリピ 3:13) で、多くの体験を為し、様々な味わいも。昨年、50 年後となる、初穂の教会 (洋光台) に転入会。年を経て現在は教会生活に於いては、支える人材としての立ち位置。未信者 99% 以上の宣教地の日本において、マジック・ウクレレ・ハーモニカ (50・10・8 年経歴) を用いて、喜びと楽しみを多くの方々と共に分かち合っております。歓声・拍手を浴び、失敗も成功も神のみぞ知ると、ひたすら走る老人としての生活です。



<証②> 「ここに真理がある」

堤 秀幸（福岡西部教会）

「私は真理について証しをするために生まれ、そのために世に来た」

ヨハネ 18 章 37 節

私は高校 1 年の時にバプテスマを受けました。
どういふことでバプテスマを受ける決心をしたのか、その頃のことを思い出します。
きっかけは西南学院中学校に入学したことです。入学してしばらくして、福岡の古賀バプテスト教会に行くようになりました。教会の近隣に住む西南中に通う数名の生徒に山田豊秋先生は呼びかけられてこの教会を案内してくださいました。

教会の礼拝に出席する中で、鶴見健治牧師の説教から、「ここには真理がある」との思いが湧き信仰決心にいたりしました。バプテスマを受けるにあたっては、両親の反対に会い、その間牧師先生が何度か家に訪ねて来られたり、教会の皆さんが祈って下さり、両親の許可が出るのに 1 年かかりましたが、西南高校 1 年の時に受浸しました。

社会に出て、会社生活では大阪、福岡、東京をそれぞれ数回転勤を経験しまして、定年は東京で迎えました。東京では品川教会に在籍して楽しく信仰生活が送れましたこと、品川教会の皆さまに感謝しています。2017 年に福岡に戻り、現在は福岡西部教会に在籍しています。

2019 年から九州バプテスト神学校で働かせて頂いています。九バブは現役の牧師先生、元西南学院大神学部の先生方で講義と学校運営が行われています。その先生方の信仰を学び、学校に対する真摯で熱心な取り組みに毎日接していきまして、九バブに勤めていることに感謝をしています。そして一つうれしいことがあります。私の西南中の時の同期で牧師になられた方がおられたことは私にとり大きな喜びです。その方は福岡城西教会の宮井武憲牧師です。（宮井先生勝手に書いてすみません）在学中はクラスも違って、存じ上げなかったのですが、福岡にいたことでわかりました。

私は全国壮年会連合の「監査」を担っていますが、この壮年会連合の働きを担う高良会長をはじめ役員の方々にほんとうに「ごころうさます」と申し上げて感謝いたします。



<今後の歩みと働きのための祈り>

- ◎ 8 月 20 日(水)全国壮年会連合定期総会の議決表の締切日です。各教会で各代議員の議決表をまとめて、早急に全国壮年会連合事務局へ送付願います。
- ◎ 2025 年 8 月 22 日(金)～23 日(土) 第 60 回全国壮年大会 in さいたま(埼玉の浦和教会でオンライン併用)
 - テーマ これからの No Border な教会の話をしよう！ ～教会が「教会」であり続けるために～
 - 主題講演 講師：朴 思郁(日本バプテスト連盟宣教研究所所長、西川口教会牧師)
 - 良き学びの大会となるように、そして、準備にあたっている実行委員会のために祈りましょう。
北関東連合壮年会実行委員長：戸田 浩司(西川口教会)
 - 参加費：会場 2,000 円 オンライン 1,000 円 22 日夕食懇親会 1,500 円
全国壮年会連合HP、又は、各教会・伝道所に送付されています、チラシをご覧ください。
- ◎ 全国壮年会連合オンライン研修会 10 月 18 日(土) 15:00-16:30 講師 田坂元彦牧師(横浜ニューライフ教会)
- ◎ 福井教会への第1回協力伝道派遣チーム(伝道隊) 11 月 15 日(土)-16 日(日) 本部役員を中心に派遣します。その働きのために祈り願います。
- ◎ 11 月 8 日(土)(10:30-14:00)第2回地方連合壮年会等代表者会議(オンライン)は、各地区の壮年会長(代務者含む)の参加により、今後の壮年会連合の在り方についての検討委員会設置を目指したいと思います。
- ◎ 西南学院大学神学部、東京バプテスト神学校、九州バプテスト神学校の神学生の良き学びの為に。卒業後の歩みが豊かに導かれますように。そして、特色と強みを生かした三つの神学校を通じて、諸教会・伝道所の各教会員の学びが豊かに祝されますように。特にオンライン受講等により、信徒説教のための学びを深め、無牧師の教会・伝道所等での奉仕ができますように。信徒一人ひとりの献身から「教役者の働きを担う献身」へ導かれるように。

<お願い>

- ◆ それぞれのところで主にあつて頑張っておられる方々やその働きをご紹介ください。このエマオ通信でその証を紹介してまいります。
- ◆ 第 1 回壮年大会(1965 年目白ヶ丘教会他)開催以来の大会資料をお持ちの方をご紹介くださいますように。